平成２９年度　大阪府立摂津支援学校　第３回 学校協議会　実施報告書

1.　日　時　　平成３０年２月１９日(月)　１０：００～１２：１０

2.　場　所　　本校　会議室〔２階〕

3.　出席者　〈学校協議会委員〉

西野　陽一（大阪工業大学・学校協議会会長）　大矢　優子（摂津市教育委員会）
森　理子（吹田市子ども家庭センター）　福光　徒紫美（ダイキンサンライズ摂津）
増山　克己（茨木・摂津障害者就業・生活支援センター）
水眞　龍次（高槻市柱本自治会）　宮脇　千恵（本校 PTA 役員）

〈摂津支援学校〉

校長（大峠）　教頭（川村・南）　事務長(洲本)　首席（中島・木村）
教務部長（坂部）　部主事（小野・平水・三牧）

〈傍聴者〉３名（本校保護者）

4.　報告及び協議事項

【協議事項】①学校教育自己診断の結果報告
②授業アンケートについて報告
③今年度の総括及び次年度の学校経営計画策定に向けて

【報告事項】①引きつぎ訓練の報告
②いじめに関するアンケートの結果報告
③進路状況について
④校則の見直しについて

5.　説明・質問・協議内容等

（１）はじめに〔進行：首席〕

○　配付資料の説明　（高等部２年生職業コース生徒が接客を担当）

○　校長あいさつ　今年度もたくさんの意見をいただきながらスムースに運営を進められた。来年度から学校協議会が学校運営協議会となる予定。より地域に開かれた学校へというのがねらい。現在のものより、権限が広がる。ただし、まだ実施要項が出ていないので詳細は未定。会自体の内容は大きく変わらないだろう。メンバー構成について、子ども家庭センターが学校と同じ府の職員なので“外の風”にあたらない。来年度も業務の連携はしていくが、協議会のメンバーには含めないことになる。

○　会長あいさつ　来年度は、名称と形態が少し変わるので学校協議会としては最後の開催になる。今日も活発な意見交換をしていきたい。

（２）協議事項〔進行：会長　記録：部主事〕

① 学校教育自己診断の結果報告（首席より）　別紙資料③参照

・基本的には昨年度までと質問項目を変えずに経年変化を比較した。
・教育庁の指示により「いじめ」に関する項目を追加した。
・今年度は保護者に再度提出の呼びかけを行ったが中学部は昨年度より提出率が下がった。
・中学部の生徒は、今年度は全員が〔イラスト版〕を用いて回答した。
・保護者、児童生徒、教職員ともに肯定的回答が多数を占めた。児童生徒、教職員については、肯定的回答が大幅ダウンした項目があった。否定的回答については、30%以上あるかどうかに着目した。

・今後の課題として、児童生徒への学校目標の周知、ホームページ改善、生徒に対する相談体制、教職員より出された学校経営に関する課題の４点が挙げられる。
・５年間、同様の形で経年変化を見てきたが、来年度は項目数や項目内容を再検討した上で取り組みたい。

・各委員からのご意見

［委員］ 今後の課題について、教職員の課題が昨年度よりも大きくなっているのではないか。
「場の設定」とあるが、具体的な考えはあるのか。校長のリーダーシップが今年度も下がっている。

［校長］ 「生の声」とあるが、意図してそうしている。校長室への直接的訴えは多かったが、本校は組織としての力が弱かった。トップダウンで指示を出すのは簡単だが、それでは組織が育たない。責任を譲渡して、職員朝礼でも自分自身はしゃべらないようにしている。事前の打ち合わせで教頭に伝えて、それを現場におろし、現場で考えられるようにしたい。教頭や首席、部主事を育成することも必要である。
質問項目を「校長だよりを読んでいるか」や「校長の考えていることを理解しているか」など、教員が自分のこととして考えられるような聞き方をしないといけない。
肯定的評価が５０％台とあるが、学校運営は３割の支持者がいれば改革できると考えている。校内人事については限られた中で、配置を考えるので仕方がない部分もある。

［委員］ たとえば、「学校経営計画を知っているか」と聞くといくことか？

［校長］ 学校経営計画は教員にも開示しているが、教員からはほとんど意見は出てこない。
基本的に、教員がやりたいと言うことに NO と言ったこともない。校長が自分でできることは少ないので、立てた計画に基づいて教員に動いてもらわないといけない。

［会長］ 確かに、文章の内容で数値が変わるところがある。
教職員の項目４「適正・能力に応じた～」については、この学校を見ていて意外な結果であり、気になる。

［委員］ リーダーシップもだが、それ以上に教員との信頼関係が大切である。

［委員］ 項目１「リーダーシップの発揮」と項目２「意見の反映」を照らし合わせて考えると、自分の思いを伝えたいという気持ちが高まっているのではないか。２が低くて、１が高ければワンマン経営になってしまう。
児童生徒の項目１２「担任の先生以外に相談できる」の否定的回答が多いとあるが、この聞き方では評価が低いととらえるのか、担任の先生への相談で十分なのか、困ったことや必要性がないのかがわからない。質問文に「困った時」などが加わると変わるのかもしれない。

［委員］ 准校長のいる学校といない学校では、校長の負担が違うのではないか？小中高を１人の校長が運営することは負担が大きいのではないか。

［校長］ 業務としては多忙かもしれないが、組織として働いている。准校長がいることで、面談の所要時間の軽減などメリットもあるが、２人で運営することのデメリットもある。
トップダウンは楽だが、学校としての力は弱い。そうではなく、校長がいなくても動ける学校を作っていきたい。

② 授業アンケートについて　（教頭より）　別紙資料④参照

・学年があがると参観者が減少傾向にあり、保護者からの回収率はよくない。しかし、昨年度と比べると１枚も回収できていない学年が減った。
・生徒についてはこれまで高等部のみに実施していたが、今年度は中学部の生徒にも実施した。

小学部児童にも行う予定であったが、実態として難しかった。
・引き続き、保護者用授業アンケートの回収率を上げるための工夫をしていく必要がある。

・各委員からのご意見
［会長］ 母数が少ないと、統計として数字にはあまり意味が無い。数をどうやって増やすかはこの学校にとって永遠の課題である。
生徒対象のアンケートは総数が1000枚を超えているので、統計として考えられる。
［委員］ 高等部２、３年生で、平均3.9点という結果は４点満点のアンケートなので、とても高い評価を得られているということになる。
［校長］ 高校で行うと、平均2.4点くらいになる。
［委員］ 項目５（授業でがんばったことを先生にほめてもらいましたか？）は生徒が実感していないと書けない項目である。その評価が高いということは子どもたちが「ほめられた」と実感しているということを表している。
その点で言うと、中学部が高等部より数字が低いのが気になる。
［校長］ 中学部は高等部より多感な時期にあたり、教員や友だちともぶつかりながら成長していっている。高等部になるとある程度落ち着いてくるので、その影響だろう。

③ 今年度の総括及び次年度の学校経営計画策定に向けて（校長より）別紙資料⑤-1,2参照
・自己評価が△の項目を中心に経過を説明した。できているところも多いが、一番大事にしているところができなかったという思いはある。
・次年度の計画については、中期目標も含め、大きく文章を変えた。

・各委員よりご意見
［委員］ 資料を事前にいただけたらもっと読みこめる。委員の負担になる面もあるが、可能か。
［校長］ そういう対応している学校もある。来年度以降、事前送付する方向で考える。
［委員］ H29年度からH30年度でなくした項目はあるか？
［校長］ 裏面の取組内容の欄で、順番を入れ替えたり、わかりやすい言葉にした項目はあるが、大きな項目としての変更はない。
「いい授業をする」ことに重点をおいた。
［委員］ ＴＴ連絡票の導入は、風通しのよい学校ということにつながる。コミュニケーションを大事にしてほしい。
［校長］ コミュニケーションがあれば、他はついてくると考える。教員は真面目なので、授業をよくしたいという思いはある。時間と場所に縛られない方法をとることで、意見交換を活発にし、授業改善につながれば、それが子どもに返っていくことになる。また、教員によって授業力の差があることの解消にもつながる。
［校長］ めざす学校像の文言も子どもにとって難しいところもある。しかし、設定の経緯もあるので変更はしていない。
［委員］ 学校によっては、スローガンを別に掲げているところもある。

（３）報告事項
①引きつぎ訓練の報告（首席より）
・パワーポイント資料で、避難訓練、備蓄品試食、引きつぎ訓練の様子の写真を紹介しながら、今年度の実施状況や今後の課題について報告をした。
［委員］ 学校引きつぎについて、１回でも経験があるかどうかで、いざという時の対応が違ってくる。12月という月は、保護者も出にくい時期だが、何とか協力をしてもらいたい。せめて、

在学中に１回くらいは経験できるようにしたいものである。

［委員］ PTA の運営委員会でもいろいろな意見が出た。バスやディの送迎車がないバージョンをやる、年に数回やる、今回と同じようにやる、など。しかし、１回目ができたということが何よりも成果である。本校の授業参観の出席率を考えると、学校引きつぎの割合を高めることは大きな課題である。

［会長］ 津波の想定はどうなっているのか？

［校長］ 地震発生２時間後に２階まで浸かることが想定されている。そうなった場合、学校周辺の道路状況もひどく、迎えに来るのに時間がかかるであろう。個人備蓄は１日分だが、学校としての備蓄は３日分くらいを考えなければいけない。

本校は、摂津市の一次避難所にもなっている。

［委員］ 備蓄品の試食を、椅子と机がある教室ではなく、避難場所として集まった教室でやってみることも考えてはどうか？経験としてやっておくことや、１回はできたということに意味がある。

②いじめに関するアンケートの結果報告　（首席より）　　別紙資料⑥

・今回のアンケートで新たないじめ事案はなかったが、今後も年に１回、アンケートを実施するとともに、引き続き、児童生徒の SOS のサインを見逃さないように、見守り・支援をしていく。

［会長］ アンケートの実施時期は？　⇒　11 月に実施した。

［委員］ 中１が多いのはなぜか。また、高３の問１が０なのに、問２でしんどいと答えている生徒がいるのはなぜか。

［学校］ 聞き取りをしていると、小学校での経験のことを思い出しているようである。書いている文言（４月から今日まで）ということの理解が難しい生徒もいる。

［学校］ 高等部の生徒も、いじめによるしんどさではなく、アンケートを書いているときの自分の体調（気持ち）のことを答えていた。

［委員］ 「相談したいことがある」と答えた児童生徒について、今回は聞き取りもしてもらえて、先生に話すチャンスがもらえたが、このアンケートがなかった時に、その気持ちは話せていたのかな？と思う。

自己診断とも関連するが、担任、それ以外の先生、保健室など、いつでも相談できるよということを子どもたちに発信してほしい。

［校長］ 大阪府からの指示はアンケートをとるということのみであった。子どもへの聞き取りは学校として取り組んだ。継続的に、子どもたちの様子を見ていく。人に話すことができるようになると、家でのこともわかるようになり、子どもたちの支援へとつながっていく。

［会長］ 先生方には「いじめはあるもの」として見てもらいたい。支援学校の場合、本人たちからは出にくい側面もあるので、その分、しっかりと見てほしい。

③進路状況について　（高等部主事より）　　別紙資料⑦参照

・開校以来、人数が最多の学年である。

・生活コースからも３名の就労が決まった。他２名も挑戦中である。

・学校からの実習を介さず、縁故やハローワークによる自己就職者もいた。

［委員］ 就労後の定着が大切である。１年間訓練することで、定着率は上がると思うが、近年の傾向として、就職率が上がる反面、訓練校の希望は年々減っている。

今後の訓練校の使い方として、離職してしまった子への再斡旋も考えられる。

［委員］ 定着については、３年がヤマだと考える。離職の理由は体力面の課題だったり、仕事とのミスマッチだったり様々である。

今の時代に、１８歳で職場に送り込まれることの大変さもある。受け入れる側としては、

せめて３年くらいはアフターケアをお願いしたい。

［校長］ 昨年より、府の方からアフターケアについても業務としてふれられるようになったため、校務として出張に行けるようになった。本校だけでいうと、まだ卒後３年に該当する生徒がいない。今年の３年定着率がカギになってくる。

［委員］ 保護者の中にも、就職するのがよいこと、就職できないのはダメという考えの方もいる。本人に合った進路が選択できるようにしてほしい。

［会長］ 大阪府教育庁からも就職率を上げるように指示が出ていると思うが、本来、それよりは離職率を下げることの方が大切である。

④校則の見直しについて　（指導部より）　別紙資料⑧より

［委員］ 違反のチェック体制はどうなっているのか？

［学校］ 日々、様子を見て声をかけている。校則を破ったから指導というよりは、３年後社会に出るまでに、身につけられるように「身だしなみ」として指導している。

［委員］ 高校によっては、自己責任で自由な学校もあるが、本校に通う生徒は様々なフォローも必要なので、校則は必要だろう。

［校長］ 文言の改定等、今後も生徒の実態に対応できるように見直しを行っていく。

6.　まとめ　〔進行：首席〕

［校長］ 今年度もありがとうございました。
学校運営協議会へ変わることに伴う変更点の説明。
学校を「コミュニティ・スクール」へというのが主旨。より地域に開かれた学校へ。
その他、権限の拡大について説明。学校側としては、これまでとそんなに変わらないと考えている。

［会長］ 今年度もありがとうございました。
H30 年度に府下一斉に『学校協議会』を『学校運営協議会』に変更するというのは無茶だと感じている。もともとは、文科省が言い始めたことで、本来は校区域が限られている小中学校から取り組むべき内容であるが、府下の小中ではできていない。なのに、府立学校が先行するのは地域が広すぎて、本来の目的にそぐわない。
回数も現行の年３回より増えるのか？権限が増えるなら、責任も生じてくる。
いずれにしても実施要項しだいのところである。

7.　事務局より諸連絡

・次年度の日程等未定。学校運営協議会の要項が出てから改めて連絡。
年３回の出席協力ありがとうございました。

【配付資料一覧：資料番号】

①次第　②協議会名簿　③学校教育自己診断の結果報告　④授業アンケート結果報告
⑤今年度の総括及び次年度の学校経営計画策定に向けて　⑥いじめに関するアンケートの結果報告
⑦進路状況　⑧校則の見直しについて　⑨学校運営協議会資料